

市指定

所在地：黒岡

かすがしかまんだらず

## 春日鹿曼茶羅図

春日鹿曼茶羅図は、<sup>ほんじすい</sup>本地垂迹思想(インドの仏が日本の神に姿を変えて衆生を救う)に基づいて描かれたものである。

この図は雲上に春の使者である白鹿を描き、鹿の背には鞍を置き榊の木を立て、その上に大きな神鏡を掲げ、中央の一宮には阿弥陀如来、左の二宮には薬師如来、下の三宮には地蔵菩薩、上の四宮には十一面観音、右の若宮には文殊菩薩を配置し、さらにそれらの上部には三笠山にかかる月を描いている。

当地方に残る垂迹画の好例で、慶長年間頃(1596~1615)の制作と考えられている。

